

令和元年度 日本大学スポーツ科学部 学部研究費 研究実績報告書

所属：スポーツ科学部 競技スポーツ学科  
 資格：教授  
 氏名：清水 享

<p>研究課題名</p>	<p>東アジア周縁部の祭祀と経典テキストの歴史学、文化人類学的研究</p>
<p>研究目的及び研究概要</p>	<p>本研究では東アジア周縁部の中国雲南省・四川省・貴州省に居住する彝族が用いる彝文字によって書かれた教典テキストの分析を進める。また彝族の宗教職能者である「ピモ」がこの教典テキストを用いて祭祀活動を行っており、その祭祀活動についても分析を進める。このような教典テキストや祭祀活動について、アジアの他地域の文化における祭祀活動や教典テキストとの比較なども行なう。そして彝文字によって書かれた教典テキストと「ピモ」の祭祀活動の歴史的变化、文化変容、社会的役割の変遷などを歴史学や文化人類学などの視点から、多角的に把握し、その実態や構造などを総合的に明らかにする。</p> <p>彝族の祭祀活動は、彼ら独自の文字である彝文字によって書かれた経典テキストが用いられ、執り行なわれる。本年度も前年度に引き続き、この彝文字で書かれた経典テキストとそれを用いた祭祀活動について、歴史学および文化人類学の視点を中心に分析・考察を進める。宗教職能者である「ピモ」が教典テキストを用いてさまざまな祭祀活動を行なっている。祭祀活動と教典テキストの現状および歴史的变化や社会的構造についてデータを収集し、分析考察する。またこれらの現状や歴史的变化、文化変容、社会背景に関するデータも収集する。</p>
<p>研究実績の概要</p>	<p>本研究では中国雲南省・四川省・貴州省に居住する彝族が用いる彝文字教典テキストの分析を進めようとした。また彝族の宗教職能者である「ピモ」がこの教典テキストを用いて祭祀活動を行っており、その祭祀活動についても分析を進めようとした。</p> <p>本年度は中国雲南省や四川省において、そうした彝文字教典テキストや祭祀活動などに関するフィールド調査を計画していたが、2019年秋における中国当局による日本の近代史研究者の拘束といった事案が発生したため、他分野であるがフィールド調査の自粛を余儀なくされた。これにより、残念ながら現地におけるフィールド調査はほとんど進展させることができなかった。このような事情に鑑み、2020年2月に台湾の国史館において、彝文字教典テキストや彝族の祭祀活動に関して近代史の側面から、収集できる史料はないか、調査を進めた。調査を進めてみて、現時点ではこの方面に関して有効な史料はともなわず少なかった。ただ近代の彝族の政治的な動静に関する史料は少なくなく、現在の研究を進展させる新しい研究のテーマとなるデータは収集できた。</p> <p>宗教職能者である「ピモ」などが文化的に多く関りをもつ彝語のことわざについて、その日本語への翻訳作業を現在、精力的に進めている。彝語のことわざは彝語で「ルビ」といい、五言の対句、すなわち十音からなっているものなどがある。この「ルビ」に関しては日本では学術的にも一般の書物やメディアにおいても全く紹介されておらず、翻訳は非常に先進的な取り組みであると言えるであろう。「ルビ」をまとめた彝文字による書籍が四川省の現地で出版されており、これを底本として一部をピックアップして翻訳作業を進めている。できるだけ多くの「ルビ」の翻訳を進め、将来的には書籍の刊行をする予定である。そのためには、現地での「ルビ」の使用状況や「ルビ」の社会的・文化的な意義なども調査を進め、取りまとめていかなければいけない。</p> <p>本年度はこうした自身の研究を背景として、2019年12月に日本大学危機管理学部・スポーツ科学部公開講座において「中国四川・雲南の少数民族 - 彝(イ)族の社会・文化」の講演を行なった。</p>